

里芋

山形で初めて食べた芋煮に感動して、栽培を決めた。

nouen 成の里芋はねっとり、とろりとした食感が売り。現在は加工にも取り組み、剥き芋としての販売も行っている。



アスパラガス

県による栽培指導などのバックアップが期待できたことと、山形で食べたアスパラガスの美味しさから栽培を決めた。

今年で栽培から5年目になり、大ぶりで肉厚なアスパラになっている。



nouen 成の作物

nouen 成ではアスパラガス、茎ブロッコリー、里芋を軸に、かぶ、かぼちゃ、じゃがいもを育てている。今年からは新たにお米と青菜の栽培も始めている。



茎ブロッコリー

栽培のきっかけはスーパーで偶然見かけたこと。茎ブロッコリーには妊婦さんに重要な葉酸が豊富に含まれていて、当時、妻が妊娠中だったこともあり目に留まった。実際に食べてみると、とても美味しく、お気に入りの野菜になった。

購入者からの評価も高く、県内にとどまらず神奈川県のスーパ―や首都圏の百貨店にも出荷している。

これからの nouen 成

「nouen 成」という名前の由来は、江戸時代中期の米沢藩主・上杉鷹山が詠んだ和歌の一部にある「なせば成る」。この名前には、農業が抱える様々な課題に挑戦し、解決していきたいという高橋さんの熱意が込められている。

nouen 成の次なる目標は法人化だ。高橋さんは、「いずれは経営規模を拡大していき、農業界の危機を解決する会社になりたい」と語る。



nouen オンラインショップ

成

の情報はこちら

フェイスブック



ホームページ

<https://www.big-advance.site/s/166/1596>

Instagram

アカウント名 (@nouennaru)

農業界の危機に立ち向かう

なる nouen 成



米沢から農業への挑戦 nouen 成

米沢市に移住して農業に挑戦する人がいる。「nouen 成」の高橋俊之さんだ。nouen 成ではアスパラガスや茎ブロッコリー、里芋をはじめとした様々な作物を栽培している。

高橋さんは神奈川県消防局に勤めていたが、妻の実家がある南陽市で農作業の手伝いをした際に、農業の担い手不足を知った。「農業の人材不足」という課題と、もともと持っていた「起業したい」という気持ちが合さり、「農業をやろう」という考えに至った。公務員からの転職に対し、周囲からの反対もあったが、妻の後押しと日本の食を守る農業に挑戦したいという強い思いから、農家への転職を決意した。

移住×新規就農

農業をやろうと思ったが、高橋さんは農業経験が一切なく、「まずは家庭菜園から始めよう」と考えた。すぐに、当時住んでいた茅ヶ崎市の市民農園に問い合わせたが、利用者でいっぱいであった。そこで、近所の畑の持ち主からの協力を得て、家庭菜園を始めることができた。家庭菜園では栽培の基礎を学び、できた作物を食品店の購買担当者に評価してもらうなど、着々と就農への準備を進めていった。この経験を通して「自分の農業への本気度を確認できた」という。

そして、平成31年4月に米沢市へ移住し、約1年間農業関係の会社に勤めたのち、令和2年6月に独立就農し、nouen 成を立ち上げた。「就農して一番大変だったのは、農地を手に入れることだった」と高橋さんは語る。米沢市に知り合いはおらず、ゼロからの土地探しであったが、少しずつ農地を集めていった。小さい面積でも収益をあげられるよう、高収益作物を栽培することからnouen 成は始まった。